

平成 18 年 2 月 3 日

岩手県知事 増田寛也 様

第 2 クリーンセンター（仮称）整備検討委員会
委員長 中澤 廣

第 2 クリーンセンター（仮称）整備・運営事業に係る審査結果について

私達は、昨年 4 月に委員委嘱を受け、4 月 28 日に開催された第 1 回委員会以来延べ 6 回会議を行い、事業者選定基準を定め、企画提案書の評価を慎重に行ってまいりました。

本日、各委員の評価結果を集約し、次のとおり委員会として選定いたしましたので、報告いたします。

なお、審査結果の詳細は、別添「第 2 クリーンセンター（仮称）整備・運営事業 審査講評」のとおりです。

記

最優秀提案として選定された企画提案書の提出者

タクマグループ（代表企業：㈱タクマテクノス）

第2クリーンセンター（仮称）整備・運営事業

審 査 講 評

平成 18 年 2 月 3 日

第2クリーンセンター（仮称）整備検討委員会

第2 クリーンセンター（仮称）整備・運営事業 審査講評

目 次

第1 審査結果の概要	1
第2 資格審査結果	3
第3 基礎審査結果	3
第4 定量化審査結果	4
第5 最優秀提案の概要	7

第1 審査結果の概要

岩手県は、「いわて資源循環型廃棄物処理構想」の理念に基づき、廃棄物を資源として捉え、本来の産業活動や県民の日常生活によって排出される廃棄物を資源として再生利用(適正処理)する資源循環型モデル施設の検討を進めてきた。

本事業は、産業廃棄物の自県内処理を促進するとともに、循環型地域社会の形成を進めるため、資源循環型モデル施設の全体構想のうち、公共関与による産業廃棄物処理施設として、先行して整備する焼却(溶融)施設(以下「本施設」という。)の整備・運営を行うものである。

また、岩手県では、本事業の事業方式としてPFI方式を用いて実施することを検討し、平成17年6月20日に実施方針を公表し、実施方針に対する質問受付を行った結果、多くの質問が寄せられ、本事業に対する関心の高さがうかがえたこと、岩手県が直接実施した場合とPFI事業で実施した場合の比較の結果、PFI事業で実施した方が様々な効果が期待できたことから、平成17年7月28日に特定事業として選定し、募集要項等と併せて公表したものである。

その後、2グループから参加表明書が提出され、別途示す事業者選定基準に従い評価を行った。

資格審査は、岩手県にて各グループの参加資格について審査し、2グループともに問題となる点は、見受けられないとの報告を受けた。

引き続き、平成17年12月16日に各グループから企画提案書が提出され、基礎審査を行った。基礎審査は、各グループの提案が別途示す要求水準を満たしているかについて実施した。その結果、1グループは、本事業で求めている溶融施設を計画・設計・施工しない内容となっていることから採用できないと判断し、残り1グループのみで定量化審査を実施することとした。

定量化審査は、「事業計画」、「施設計画」、「運営・維持管理計画」、「周辺環境・循環型社会形成への配慮」、「経営計画」の5項目から評価を行い得点化し、グループ2の提案を最終的に最優秀提案とした。また、定量的評価を行うに際し、企画提案書に関するヒアリングを実施し、企画提案内容について理解を深めた。

なお、この一連の審査は、応募者のグループ名は匿名のもとで実施し、審査終了後にグループ名を確認した。

【最優秀提案】

グループ名：タクマグループ

代表企業：(株)タクマテクノス

構成員：(株)タクマ

構成員：西松建設(株)

表1 審査の経過

日程	内容
平成 17 年 4 月 28 日	【第 1 回委員会開催】
平成 17 年 6 月 7 日	【第 2 回委員会開催】（実施方針の審議）
平成 17 年 6 月 20 日	実施方針の公表
平成 17 年 6 月 20 日～30 日	実施方針に関する質問受付
平成 17 年 7 月 1 日	【第 3 回委員会開催】（募集要項等の審議）
平成 17 年 7 月 22 日	【第 4 回委員会開催】（募集要項等の審議）
平成 17 年 7 月 28 日	実施方針に関する質問回答
平成 17 年 7 月 28 日	特定事業の選定・公表
平成 17 年 7 月 28 日	募集要項及び要求水準書の公示、 業務基本協定書(案)、事業契約書(案)の交付
平成 17 年 8 月 3 日	募集要項及び要求水準書等に係る説明会
平成 17 年 8 月 3 日～8 月 12 日	募集要項及び要求水準書に関する質問受付（第 1 回）
平成 17 年 8 月 31 日	募集要項及び要求水準書に関する質問回答（第 1 回）
平成 17 年 9 月 5 日～9 月 9 日	参加表明書及び資格審査申請書類の受付
平成 17 年 9 月 15 日	資格審査結果の通知
平成 17 年 9 月 16 日～9 月 30 日	資格審査結果に関する説明要求の受付、回答
平成 17 年 10 月 24 日～10 月 28 日	募集要項及び要求水準書に関する質問受付（第 2 回）
平成 17 年 11 月 11 日	募集要項及び要求水準書に関する質問回答（第 2 回）
平成 17 年 12 月 16 日	企画提案書の受付
平成 18 年 1 月 25 日	【第 5 回委員会開催】（企画提案書の審査）
平成 18 年 2 月 3 日	【第 6 回委員会開催】 （ヒアリング、企画提案書の審査）

第2 資格審査結果

2 グループからの参加表明書及び資格審査申請書類に基づき、岩手県が資格審査を実施した結果、2 グループともに参加資格要件を満たしていた。

表2 参加表明書及び資格審査申請書類提出者

	グループ名	代表企業
グループ1	荏原・オリックスグループ	(株)荏原製作所
グループ2	タクマグループ	(株)タクマテクノス

第3 基礎審査結果

企画提案書は、資格審査を通過した2 グループから提出され、その企画提案書に基づき、基礎審査を行った。

その結果、グループ1の提案は、「溶融処理は外部委託とし、全体システムとして溶融機能を有す」という提案であったが、廃棄物を自県内で処理できる体制の整備を進めるため公共関与で実施する本事業で求めている溶融施設を計画・設計・施工しない内容となっており、採用できないと判断した。

グループ2の提案は、すべての内容が基礎審査項目を満たしていると判断した。

表3 基礎審査結果

審査内容			グループ1	グループ2
提出書類の確認	提案内容の齟齬・矛盾	提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。		
	提出書類の構成	提案書全体について、様式集に従った構成（項目の構成、枚数制限等）となっていること。		
要求水準の確認		当該提案に関連する各様式に示す項目に対する提案の内容が「第2クリーンセンター（仮称）整備・運営事業 要求水準書」に記載されている要求水準を満たしていること。	-	
事業運営に関する確認	資金計画	初期投資における借入金の返済期間に追加的な出資又は融資を想定していないこと。		
	リスク管理	リスク管理に関し、「第2クリーンセンター（仮称）整備・運営事業 募集要項」に記載されている内容との齟齬がないこと。		

第4 定量化審査結果

(1) 審査結果

基礎審査を通過したグループ2の定量化審査を行った。

定量化審査は、「事業計画」、「施設計画」、「運営・維持管理計画」、「周辺環境・循環型社会形成への配慮」、「経営計画」の5項目から評価を行い得点化した。

なお、定量的評価を行うに際し、企画提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容を確認するとともに企画提案内容について理解を深めた。

表4 評価項目の採点基準

評価	内容	採点基準
A	特に優れている	配点×1.00
B	優れている	配点×0.75
C	要求水準どおり	配点×0.50

表5 定量化審査結果(グループ2)

評価項目		評価のポイント	配点	採点
事業計画	事業実施方針	・本事業の実施に当たっての基本的考え方	5	37.50
	本県への貢献	・自県内処理推進における本施設の役割 ・青森県境の不法投棄廃棄物の処理における本施設の役割	5	36.25
	地域社会との調和	・地元産業活性化に対する取り組み ・地元との共生に対する取り組み ・情報公開・情報発信に対する取り組み	5	33.75
施設計画	処理システム	・処理システムの安定性及び信頼性 ・受入廃棄物の種類と処理システムの整合性	5	36.25
	設備・機器性能	・設備、機器等の安全対策 ・装置、機器類配置の適切性	5	30.00
	総合建築計画	・配置計画及び車両動線計画の適切性 ・周辺環境と調和したデザイン性	5	31.25
	施工計画	・建設期間の適切性 ・工事監理(施工監理、公害防止対策等)の適切性	5	32.50
運営・維持管理計画	運営体制	・人員及び人材の配置における適切性 ・運営計画の適切性	5	35.00
	運転管理	・運営、維持管理における安全性 ・運営、維持管理における衛生性 ・緊急時(停電、地震、事故等)の対応	5	32.50
	点検・整備・補修	・施設の機能維持に対する取り組み ・補修計画の適切性 ・点検計画の適切性	5	33.75
	監視体制	・自己管理体制(事業者実施のモニタリング) ・モニタリング(本県実施のモニタリング)への協力	5	30.00
周辺環境・循環型社会形成への配慮	環境保全対策・地球環境への配慮	・環境保全(排ガス、排水、騒音、振動、悪臭等)対策の妥当性 ・周辺地域の環境への配慮 ・温室効果ガス(CO ₂)の発生量	10	65.00
	エネルギー活用計画	・余熱利用計画 ・省資源、省エネルギーへの配慮	5	32.50
	資源化の促進	・副生成物の活用 ・最終処分量の削減	10	65.00
経営計画	処理料金及び事業費	・処理料金の妥当性 ・施設整備費及び運営維持管理費の妥当性	5	31.25
	収支計画	・事業収支計画の適切性 ・返済計画の安定性(DSCR、LLCR)	5	33.75
	資金調達計画	・資金調達方法の適切性(出資、借入、調達先、調達条件等) ・資金調達の確実性	5	31.25
	リスク対応	・リスク顕在時の対応策(保険の付保等) ・事業破綻回避の考え方 ・SPC又は出資者の破綻時の対処方法	5	31.25
合計			100	658.75

表中の採点欄は、委員8名の合計点である。

(2) 審査の講評

グループ2の企画提案について定量的評価を行った結果、以下の点が高い評価となった。よって、グループ2の企画提案を最優秀提案として選定した。

全体を通して、産業廃棄物の自県内処理を促進し、岩手・青森県境の不法投棄産業廃棄物の処理に貢献できるとともに、ゼロエミッションの理念に基づく一貫した提案が行われており、民間事業者の創意工夫やノウハウが盛りこまれた高いレベルでの提案であった。

地域融和にも積極的に取り組む姿勢であり、雇用機会の創出や資材調達など、地域の活性化が期待できる提案であった。

施設の安定稼働を重視した技術や廃棄物の種類を限定しない処理システムが提案されていること、構成企業が豊富な実績や経験を有すること、構成企業で組織する「SPCサポートチーム」による支援も期待できることから、堅実で確実な施設運営が可能な提案であった。

ISO14001の導入や環境対策に配慮したシステムの提案が行われており、環境保全面で評価できる提案であった。

溶融飛灰の資源化や溶融スラグの利用促進などを図り、最終処分量ゼロを目指す計画となっており、資源循環型モデル施設としてふさわしい提案であった。

独自の需要調査を行うことにより受入産業廃棄物の見込み量や料金設定にも無理がなく、また、経営に係る構成企業の支援も期待できるなど、安定的な経営が可能な提案であった。

また、本委員会として、本事業をより良いものとすることも責務であると認識しており、今後の事業化に向けて、以下の点を要望する。

産業廃棄物を適正処理するとともに資源循環型のモデル施設となるよう、今回の企画提案内容を確実に実施すること。

九戸村をはじめとする関係機関との協議を積極的に行うこと。特に、早期に協議の場を設けるなど、地元からの要望を真摯に受け止め、積極的に対処すること。

地元住民の立場に立って、透明性の高い実効的な情報発信を行うこと。

環境負荷のさらなる低減に継続的に努めること。

施設整備に当たっては、さらに景観に配慮し整備を行うこと。

第5 最優秀提案の概要

タクマグループ

「いわて資源循環型廃棄物処理構想」の実現に貢献

1. 多種多様な廃棄物の適正処理

- ◇ 廃棄物の種類を限定しない処理システムを採用し、多種多様な廃棄物を適正に処理

2. 循環型社会の実現

- ◇ サーマルリサイクル及びマテリアルリサイクルを最大限活用できるシステムの採用
- ◇ CO2削減（発電による場内電力の確保等）及び副生成物の再資源化により最終処分場への持込量ゼロを目指す

3. 安全、安心の確保

1) 安全・安心な設備の採用

- ◇ 安定稼働を最重視し、15年以上の稼働実績があるトラブルの少ないシステムの採用

2) 信頼性の高い運営の実現

- ◇ 豊富な経験に基づく高度な運転技術を有する運転会社による施設運転
- ◇ 各種マニュアル（運転・維持管理、搬入管理、環境管理、緊急時対応等）、教育訓練に基づいた運営
- ◇ 施設の運営開始後に環境マネジメントシステム(ISO 14001)を導入し、より信頼性の高い運営を実施

4. 安定的経営の実現

1) 豊富な事業実績に基づく経営

- ◇ 構成企業の豊富な廃棄物処理事業及びPFI事業の事業実績に基づく確実な事業経営を実現

2) SPC サポートチームの設置

- ◇ 構成企業内にSPCサポートチームを設置し、技術面及び経営面の指導・助言・人材の投入等を実施

3) 地域密着型の経営スタイル

- ◇ 地元有力企業等との連携による迅速対応可能な体制を構築
- ◇ 地元団体・企業とのタイアップによる確実なマテリアルリサイクルの促進
- ◇ 地元及び県内廃棄物関連団体・企業との連携による安定した事業経営



イメージ図は、企画提案時の計画内容であり、施設建設時には変わる可能性があります。
施設イメージ図